

肉用繁殖牛に見られた腐敗甘藷中毒を疑う間質性肺炎発生事例

京都府中丹家畜保健衛生所

西村麻紀 松田誠一 畑段千鶴子 1)

1)丹後家畜保健衛生所

【はじめに】本年5月末、成牛13頭を飼養する和牛繁殖農家において、1頭が熱発、肺音粗励、透明鼻汁排出、食欲不振等を示し上診。補液、抗生物質、解熱鎮痛剤の投与等加療するも症状は改善せず、発症3日目に症状悪化、4日目の朝に死亡が発見され、病性鑑定を実施した。

【検査及び結果】剖検では肺の充うっ血、気管粘膜及び心外膜の点状出血、肝の褪色等を認め、病理組織学的検査では肺の充血と水腫、肺胞上皮の型化と増殖、硝子膜の形成等間質性肺炎の組織像を認めたが、炎症性細胞の浸潤は軽度であった。病原検索では、鼻腔スワブ、洗浄血球液、肺、肝臓、脾臓各乳剤希釈液からのウイルス分離陰性、牛RSウイルスをターゲットとしたPCR法陰性で、鼻腔スワブ、肺からも有意な細菌は分離されなかった。中毒を疑う疫学情報として、発症約1週間前に圃場に残存していたサツマイモ約3kg/頭を給与していた事実以外になかった。

【まとめ】中毒は感染症とともに牛の間質性肺炎の主な原因の1つであり、本症例は黒斑病菌等に侵されたサツマイモの摂取による腐敗甘藷中毒と疑われた。牛は腐敗したサツマイモでも好んで採食することから、牛へのサツマイモの給与に対して、農家への注意喚起が必要と思われる。